



■はじめに

群馬県は露地（夏秋）なすの生産量が全国1位であり、平坦地域が主産地となっています。利根沼田地域は標高が高いことから、出荷期間が1カ月程度短くなりますが、温暖化により栽培しやすい環境になっています。近年、利根沼田地域ではこんにゃくの複合品目として注目され、栽培者数及び面積が増加し本年の出荷実績は3億円を超えるました。

■露地なすの特徴について

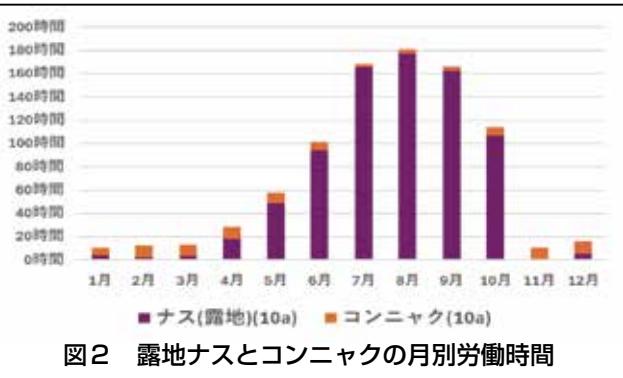
新規に栽培を開始するにあたり、必要な資材が少なく、経費が抑えられます。7月から10月まで、長期間出荷でき、10aあたり販売金額が高いことから、収益性が高い品目です。収穫ピーク時は天気に関係なく、原則毎日収穫を行います。形がよく、病気や傷のないなすをとるためには、枝の手入れが必要です。1人で管理する場合の目安は面積10aあたり本数で750株くらいまでになります。



図1
よく管理されたナスの草姿

■労働時間について

露地なすは収穫作業が本格化する7～9月を中心に労働時間が長くなりますが、栽培管理の不徹底により収量が減少することもあるため、主力となる品目の労働時間も考慮して栽培可能な面積を決める必要があります。



・出荷調製が占める作業の割合について

収穫・出荷調製（選別・調製・包装）作業は、高い価格で売るためにしっかり選別し、丁寧にFG袋に詰める必要があるため、全労働時間の半分程度を占めます。

■ほ場準備について

(1) ほ場の選定と土づくり

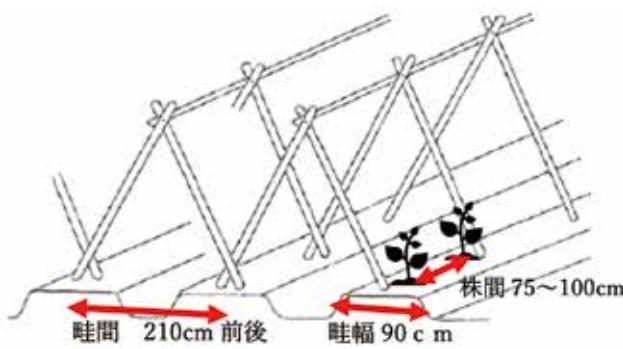
- ①バーティシリウム菌による半身萎凋病に弱いため、ウドの栽培をしたなど、発病可能性のあるほ場では「トルバム系の接木苗」を用意してください。
- ②長期間栽培するため、土壤診断結果に基づいて堆肥や土壤改良資材、元肥を投入し、土づくりを十分行いましょう。また、かん水ができるほ場を選定すると安定して良品が生産できます。

(2) 支柱の選び方・立て方について

なすの支柱を新規で購入する場合は、良品生産が可能な、なす専用の金属製V字支柱の購入をおすすめします。なお、安価で手に入る場合、きゅうり用支柱も使用可能ですが、支柱立てに調整が必要であるため扱い手・園芸課にご相談ください。V字支柱の立て方については下記のとおりです。

- ①支柱は20cm程度の深さまで土に挿し、合掌型に3～4株おきに組む。
- ②畠間200～220cmの場合、支柱を地上20cm程度の位置で交差させると適度なV字の谷部分が確保でき、茎葉の受光バランスも良くなる。
- ③各支柱の上部をマイカー線等丈夫な紐で連結し両端には筋交いを入れ、支柱が倒れないよう補強する。

新規栽培者向け講習会の開催についてJAと検討中です。興味のある方はぜひご参加ください。



担い手・園芸課 園芸係(中島)